

# ～教員おすすめ本～

No. 31

文芸学部 教養・基礎教育部門

中野 徹



## 『中華生活文化誌—ドラゴン解剖学・竜の生態の巻』

中国モダニズム研究会 著

### 【先生からのコメント】

中国に対して、PM2.5の大気汚染、反日デモ、「爆買い」と、マイナスのイメージを抱いている方も多いのではないのでしょうか。大阪のミナミにきている中国人観光客たちのパワーに圧倒される人も少なくないかもしれません。

本書は、「食べる」「着る」「見る」など、動詞を切り口に、中国に暮らす人々の生活や思考様式を読み解くためのブックガイドです。また「調べる」の項目が設けられ、ネットの記事に触れるだけでなく、自分で文献を集めて読み、思考し、レポートや論文で発信することも視野に入れています。巷間にあふれる中国「こわい」本、「ひどい」本、はたまた「すごい」本とは一線を画す、中国「面白い」本。よく見る隣人たちを知る一助として、本書をぜひ手にとってみてください。



## 『中国現代文学傑作セレクション：

1910-40年代のモダン・通俗・戦争』

大東和重・神谷まり子・城山拓也 編

### 【先生からのコメント】

中学校の国語の授業で、魯迅『故郷』を読み、高校では世界史で魯迅や『阿Q正伝』に見覚えのある方もいるでしょう。魯迅は中国現代文学史を語るうえで重要な人物ですが、当然ながら、中国には魯迅以外にも文学はあります。中国文学史では「現代」とは、1917年の文学革命（言文一致運動）から1949年（中華人民共和国成立）までの期間を指します。

本書は、中国現代文学研究者たちによる、日本であまり知られていなかった作家たちの珠玉の作品の翻訳集であり、本邦初訳のものが多く含まれています。文学好きのそこのあなた、中国にもこんな文学があったのか！と驚きと発見があるはずです。



## 『折りたたみ北京：現代中国 SF アンソロジー』

ケン・リュウ 編

中原尚哉・他 訳

### 【先生からのコメント】

劉慈欣『三体』（ヒューゴー賞長編小説部門受賞）をはじめ、いま中国 SF は世界で高く評価されています。本書は、『紙の動物園』で知られるケン・リュウ（劉宇昆）氏編集の中国 SF アンソロジーであり、英訳から日本語への重訳本です。

SF は中国語で科学幻想小説といいます。収録作品は、少し不思議な世界観で構成されており、現代中国や私たちの日常生活ともどこかで陸続きになっています。巻末の付録は中国 SF の概説であり、本書は中国 SF 入門とも言えます。表題作郝景芳「折りたたみ北京」は、ヒューゴー賞中篇小説部門受賞作品です。中国 SF に魅了されたそこのあなた。『郝景芳短編集』（及川茜訳、白水社、2019）もあわせて読んでみましょう。

2019年7月5日

近畿大学中央図書館